

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500105		
法人名	株式会社 文化タクシー		
事業所名	グループホーム ポランの広場いなせ		
所在地	〒023-1132 岩手県奥州市江刺稲瀬字水先629		
自己評価作成日	令和2年8月19日	評価結果市町村受理日	令和2年11月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2011年2月1日に認知症対応型共同生活介護施設と小規模多機能型居宅介護施設を併設し江刺稲瀬地区に開設、今年で9年目「小規模多機能ホーム・グループホームポランの広場いなせ」という介護事業所です。ポランの広場とは宮沢賢治の幻想豊かな童話のひとつで、皆が元気で自分らしく楽しめる広場、明日への活力を養う事が出来る理想郷という内容です。その理想郷が決して童話の中だけの幻想世界ではない事を目指す場所でありたいと思う気持ちから宮沢家様より著作物の使用許可を得て命名致しました。今年で開設から9年目となりますが、まだまだ理想郷と呼べる状況では有りませんが、少しでも目標に近づける様に更なる努力を続けて行かなければならないと考えています。又、今年は新型コロナウイルスが世界的に大流行している状況です。私達職員は自分自身の体調を十分に管理し施設内に菌を持ち込まない利用者様にうつさない様に注意して行きたいと思っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、タクシー事業を柱に患者輸送、子育て支援、認知症介護等、福祉介護分野に力を入れる運営母体が、小規模多機能ホームと隣り合わせで設置して9年を経過する。両施設の利用者は、行事等で連携、交流しながら、水田やリンゴ園に囲まれた環境の中で、日々のびやかにゆったりと生活している。両施設の職員は、制度上の違いや生活領域の独立性を維持しつつ、本務又は兼務として全員が両施設の業務に従事しており、機能的、効果的な介護支援を行っている。コロナ禍により地域との交流や外出が制限される中で、利用者が不安やストレスを感じる事のないよう、ホーム内での行事やレク企画の工夫に努めている。リハビリパンツから布パンツに改善できた利用者もいるなど、質の高い介護サービスが展開されている。毎年度、職員の資質向上に向け、計画・目標を明確にしながら研修や資格取得支援に取り組んでおり、介護スキルの一層のレベルアップが期待される。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年9月30日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念については職員全体会議にて意見を出し合い決定しスタッフコーナーに掲示しています。当初、決定した内容を継続して毎朝のミーティングにて職員全員で唱和しています。	職員は毎朝ホームの介護理念(「共に向き合い、共に笑顔で、共に支え、共に生きる」)を唱和することにより、理念に基づく介護サービスに努めているが、利用者同士、また利用者と職員が日々“共に”取り組む具体的な目標を設定することにより、これまで以上に理念を実践に繋げることを目指し、職員間で話し合いたいとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度は新型コロナウイルス感染症の流行にて地域活動全体が延期又は中止となり地域全体で自粛ムードが高まっている。外出などの施設行事についても中止として施設内での行事のみとしている。	地域の恒例イベントや活動は全て中止となっており、地元保育園との交流や地域ボランティアの手踊りの慰問など、例年実施されてきた地域との交流が途絶している。こうした中、お祭りそのものは中止されたが、「江刺甚句」踊りの披露会が地区センターであり、利用者の希望により、皆で見物に出かけ、楽しんだ。自治会に加入しており、ホームの紹介や介護職員の募集をチラシで回覧してもらった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へのアピール等について運営推進会議を通じて委員の方に相談した所、施設からのチラシ等を地域回覧に入れてはと言う意見が有り年間で数回を目標に実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度は新型コロナウイルス感染症対策の為に運営推進会議については資料を委員の方に郵送し意見交換をしている状況です。	運営推進会議委員は小規模多機能ホームの同会議の委員も兼ねており、同じ日に時間を区切って開催している。3月からは運営状況の資料を送付し意見をいただく書面会議となっている。運営上の課題を活発に話し合っていたり、昨年は、昼に行う夜間想定避難訓練だけでなく、実際に夜間での訓練の必要性を話し合っていたり、職員が利用者により車椅子に座って避難するなど、職員によるシミュレーションの実施に繋がり、ヘッドライトを必要とすることなど、新たな発見と気づきを得ている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より運営推進会議の委員として施設の運営に参加してもらい助言なども頂き非常に助かっています。今年に関しては新型コロナウイルス感染症対策の為に書面での意見交換を行っています。	市役所支所の担当者とは、日常的に電話等で連絡を取り合っており、昨年の台風12号の際には、事前の情報交換をもとに早期の避難を実施した。今年も、新型コロナウイルス対策や豪雨への対応について、行政サイドとの連携、協力を円滑に行うことが出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待、身体拘束については昨年5月に研修を実施した成果が序所にみられる。今年度は新型コロナウイルス感染症の対策の為に外部研修を控え内部研修に切り替えている。今後も更なる意識向上に努めていきたい。	身体的拘束の適正化への基本的な考え方、体制、研修、発生時の報告方法等について「指針」を定め、管理者、介護支援専門員、適正化対策担当職員で構成する「身体的拘束適正化検討委員会」を小規模多機能ホームと合同で立ち上げ、身体拘束の未然防止等の対策について3ヵ月毎に話し合っている。昨年度は外部講師を依頼したが、今年度は内部講師により研修を実施予定である。運営推進会議を活用し、外部委員も加えた委員会の組織化を検討したいとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待、身体拘束廃止についての研修を行った事も有り職員の意識改革にも繋がっている。又、身体拘束廃止委員会を三ヶ月に一度開催しており、その中で話し合い決定した内容を全職員に報告している。参考資料等も提供して虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については利用者様では実績が無く今後の課題として考えてきた。本年度に関しても研修会を開催する事が出来ずに至ってしまった。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い現時点では施設の方針として外部研修の見合せを検討中である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約の際には契約書、重要事項説明書を提示して利用者様、御家族が十分理解できるように時間をかけて説明し質問等にも分かりやすくお答えしている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常、日頃より職員が利用者様からの声を傾聴しミーティングなどで報告周知し次ぎへの改善に繋がっている。運営推進会議では家族様代表として参加して頂き他の委員の方と一緒に意見交換をしてもらう等、今後の施設運営の助言を頂いている。	居室担当者を中心に、利用者の日々の暮らしに対する意見や希望を傾聴し、利用者主体の運営に繋がるよう努めている。家族に向け毎月「ポラン便り」を発行し、行事の様子等をビジュアルに伝えている。午後のひととき、利用者が輪になって職員と懇談する風景が見られたが、要望や希望を確認する機会になっているとのことである。	「ポラン便り」はA4版一枚で管理者の挨拶、コメントが中心であり、面会がままならない中で、利用者一人一人の1カ月の生活の様子を家族に伝える内容を補強することが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議において職員からの声を聞き改善できる案件に関しては受け入れ今後の施設運営に反映している。	毎月1回の全体会議(職員会議)、管理者による年2回の個人面談の場が職員意見や提案を聴く主な機会になっている。個人面談では、予め、介護、介助の実践状況と振り返り、運営に関する意見、取り組みたいこと、悩み等を自己評価票に記入してもらい、面談の効果を上げている。食事は外部委託になっているが、朝食が2品と少なく1品加えることが職員から提案され、実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には年2回の自己評価をしてもらっている事で個人の意識向上に努めていただいている。管理者は職員の努力や勤務状況を把握し報酬の反映に繋げている。職場環境の整備については会議等で出た意見を参考として変更出来る点については随時変更している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修のお知らせが有る場合は掲示し職場全体のスキルアップを目指し参加を促している。しかしながら現在は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い施設全体での内部外部研修を自粛している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いわて地域密着サービス協会での定期研修会や協会内のブロック活動への参加をしている。しかし現時点では感染症対策の為に定期研修については全て中止となっている。		

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前には必ず利用者様との個人面談を行い本人の意見を傾聴し出来るだけ要望に沿ったケアプランを作成し担当者会議にて周知する事で職員一人一人が変わらぬサービスを提供出来るように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前には必ず家族様が困っている事、今後、利用者に対して望む事を伺い安心してサービスを受けられるように努力している。又、面会の際には職員からも積極的に話しかけ友好関係に務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前には利用者様、家族様が現段階にて必要とされているサービス内容を見極め提案、検討し決定している。尚、状態変化がみられた場合には随時、家族様と連絡を取り合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所の介護理念を念頭に置き利用者様と同じ空間を共有しながらお互いを尊重する事で信頼関係の構築に務めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者様の日常生活で知り得た内容を家族様に報告し常に安心してサービスを提供できる様に家族様との信頼関係の構築に務めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これからも家族様、知人との繋がりが保てる様に面会、外出、外泊等を利用して行く。尚、今年に限り新型コロナ感染症対策の為、面会、外出、外泊の自粛をお願いしている。	感染予防対策を徹底し、短時間での面会は可能としているが、家族以外の親戚、知人の来訪は少ない。墓参りや遠隔地の子どもや孫たちとの電話での会話を支援している。小規模多機能ホームの利用者に知人が多く、合同行事等を通じて日常的に交流している。馴染みの理美容師が定期的に髪などの手入れに来訪してくれている。	

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性、個々の状態変化等を考慮し座席を決めている。年に数回、席替えをして他の利用者との交流が出来る様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても今まで構築した関係を大切にして、今後相談を受けても即、対応できるように心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護理念の「共に生きる」の精神を忘れることが無いよう寄り添う介護を目指している。日常のコミュニケーションの中で利用者様の訴えを聞き入れるように努力している。	一人一人とゆっくり対話出来るよう努めており、昼食、休憩の後の午後3時頃までの時間帯に管理者、介護専門指導員、居室担当等が利用者に話しかけながら思いや希望を聴き、ケアノートや連絡ノートに記録し全員で共有している。意思表示出来ない2人の利用者については、家族と話し合いながら本人の視点に立って暮らしていけるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前に事前情報を職員に回覧し情報提供を行っている。又、利用開始してからは日常会話などで知り得た情報を会議などを利用して全員に周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の日々の経過観察については支援経過表に記入し記録として残している。又、朝夕の申し送りにて全員に周知し共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の日常生活で知り得た内容を担当者会議にて報告して頂きモニタリングを重ね介護計画を作成している。	介護支援専門員(計画策定担当者)がこれまでの介護サービスの状況、ADL、家族の状況、本人、家族の希望等を調査し、開始時のケアプランを作成している。毎月のモニタリングにより利用者の状況を的確に把握したうえで、適時に居室担当者、管理者、看護師等による「サービス担当者会議」を開催し、現状に合った必要な見直しを行い、家族の同意を得てケアプランを変更している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づき実践した内容に対し記録、報告している。又、介護支援経過表の参考資料としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズに対して出来る範囲内で柔軟なサービスが出来る様に職員一同心掛けている。又、日頃からの訴えを傾聴して職員全体で共有している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住みなれた郷土の地域行事に参加されたり地域資源の中から保育園、踊りの会の方などを施設に御呼びし楽しんで頂くなど心身の向上を図っている。現在は新型コロナウイルス感染症の流行のために外出や慰問については自粛している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に定期受診については家族様にお願いしている。状態変化がみられる場合には主治医に報告し適切な医療を受けられる様に心掛けている。	利用開始前からのかかりつけ医(消化器内科、精神科等)に家族が同行し、定期通院しているが、2名の利用者は、職員が対応している。状態変化がある場合は、必要な情報を家族に託している。歯科受診は、義歯の不具合の修理が主であるが、今後、口腔ケアにも力を入れたいとしている。小規模多機能ホームの看護師が毎日のように顔を出してくれ、バイタルチェック表の確認や利用者の様子を観察している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常生活で知り得た内容を記録し全体に報告する事で情報を共有している。又、個々の体調変化についても看護職と連絡を密に取り緊急時でも対応出来る様に心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際には医療連携室と連絡を密に取り情報交換し医療カンファにも家族様と同席する事で利用者様が安心して生活出来る様に支援している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に当事業所は重度化や終末期についての説明を行い家族様には御理解を頂いている。又、介護度の変化に伴い他施設への紹介や申し込みもお願いしている。	重度化や終末期を迎えた利用者に対し、最大限の介護を行うこととしているが、重度化に関しては食事や入浴が困難になった場合は病院や他施設への転移、また看取りは行っていないことなど、ホームでの介護支援の限界を利用開始時に本人、家族に丁寧に説明し、同意を得ている。介護度3以上になった際には、利用が想定される特養等、関連施設を紹介し、申し込み手続きを勧めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生対応マニュアルを参考に速やかに対応出来る様にしている。今年度より消防署に依頼して心配蘇生法の習得を企画している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域全体の水害を想定した避難訓練は新型コロナウイルス感染症の流行のために中止となりました。今後は施設独自の水害想定避難訓練を企画中です。又、火災を想定した避難訓練は年2回実施し1回は消防署立会いをお願いしている。	北上川浸水区域に指定されており、昨年度「水防計画」を策定した。昨年の台風12号の際は、市役所と連携を取りながら、早い段階で避難を決断して市の総合支所に利用者全員で一泊で避難し、結果いい実地体験になった。火災避難訓練は年2回実施しており、昨年からは2ヵ月毎に21時から夜間の避難訓練を職員を利用者に見立てて実施している。懐中電灯では役に立たないことから、両手を使えるヘッドライトを準備するなどの改善が図られている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様個々の人格を尊重してコミュニケーションを取る様に支援している。	利用者は「さん付け」で呼び、原則、敬語で会話している。出来る限り役割を持ってもらい、誇りやプライドを持って日々を送れるよう支援している。居室のプライバシーの確保にも留意し、ノックし、声かけをしてから入室するとともに、みだりに私物に触らないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様とのコミュニケーションの中で本人の希望などを聞き取り個々の生きがいを見つけ出せるように支援している。		

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様とのコミュニケーションの中でこれまで行ってきた趣味、手芸などをお伺いしたり、出来ていること今後もマイペースで伸ばせて行けるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族様、利用者様から散髪希望をお伺いし訪問理容日に散髪して頂いている。身だしなみについては自由に衣類交換出来る様に居室内のダンス、衣装ケースに衣類を保管している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会、たこやき会等のレクリエーションの中で自由に飲み物を選んだり調理する事で笑顔が見られている。	外注により週3回、主菜、副菜が届き、ホームでは、ご飯、みそ汁を用意している。朝食に1品を追加し、提供している。職員は、味の調整や追加の副菜の食材買い出し、調理を行っている。手作りお菓子、誕生日のデコレーションケーキを利用者と一緒につったり、正月のお餅、花見のお弁当、夏まつりの焼きそばなどの行事食を用意することもある。利用者は介助なく食事を楽しんでいる。職員は見守りを行い、一緒に食事を摂ることはしていない。下膳、トレイの洗い、テーブル拭き等、利用者は出来ることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	副菜に関しては管理栄養士のいる外部業者に委託して栄養バランスを管理して頂いている。水分制限のある方に関しては主治医と相談して個々水分量を決めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に職員の見守りの中で口腔ケアを行って頂いている。自立できない方に関しては一部介助、全介助も行っている。口腔ケア中に異常がみられた場合には家族様へ連絡し歯科受診をお願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記入し排泄パターンを確認し適度な声掛けを実施している。又、出来る方は紙パンツから布パンツに変更するなどの自立支援にも努めている。	排泄チェック表により個々の排泄パターンに沿ってトイレに誘導し、排泄を支援している。ポータブルトイレ利用の車椅子の方を除き、夜も自分でトイレに立つ人が多い。職員のごまめな支援でリハビリパンツから布パンに改善した人もおり、現在、布パンツを使用出来ている利用者が7人程になっている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃の生活の中で定期的なテレビ体操に取り組んでいる。又、適度な水分補給にて便秘解消を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の外出、受診などを考慮して事前に入浴の声掛けをしている。又、都合により入浴出来ない場合にも出来る限り入浴を楽しむ事が出来る様に曜日、時間をずらすなど対応している。	週2回、午前中に小規模多機能ホームの大きな浴場を利用させてもらい、2、3人ずつ楽しく入浴している。ホームの個浴は必要な時にサブ的に使っている。全介助を必要とする利用者はおらず、着替えやバスタオル等、入浴の準備も自分で行うなど、見守りが中心の支援となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムに合わせ居室にて戻り休息を取って頂いている。又、居室に戻れない方もいる為、声掛けして誘導しむくみ防止に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様別の処方箋一覧を作成し職員が確認出来る様にしている。服薬の際には職員同士にて薬のダブルチェックを来ない誤薬の防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	写経、塗り絵など個々の趣味活動を絶やさず支援できるように努めている。又、お手伝いなどの好きな方には職員の見守りの中でお願いする事で本人の気分転換にも繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の外出、外泊については基本的に家族様対応のお願いをしている。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い現在は施設行事での外出ドライブ、見物等は極力控え施設内のレクリエーションに切り替え企画実施している。	コロナ禍のため、遠くへのドライブや買い物は自粛し、家族の誘いも控えてもらっているが、天気の良い日は20分程度の近隣散歩に出かけている。レク担当の職員が室内でボーリング、体操、なぞなど、言葉遊び等のレクリエーションを工夫し、気分転換やストレス解消に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の生活用品を購入したり散髪する時に使うお金として預かっている。利用者様個人の預かり金があります。その中から買い物レクとして施設に設置している飲み物の自動販売機に自分でお金を入れてもらい好きな飲み物を購入する等の支援を行っている。		

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様、知人からの電話対応は随時行っている。又、本人様から連絡したいと訴えがあった場合には時間帯を考慮してお話し出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が共有空間で快適に過ごせる様に光、温度、匂い等に配慮している。又、居心地の良い空間作りの為に定期的な席替え等も実施している。	玄関を入ると右側がグループホーム、左側が小規模多機能ホームになっており、特に仕切りは設けず、テーブルにくつろいでいる利用者の顔がお互いに見える。リビングルームに小上がりの休憩室が続き多目的に利用されている。天窓から陽光が差し込み、日差しが強い時は電動スクリーンで調節出来る。季節感のある折り紙の作品などが飾られ、温湿の管理や掃除も行き届き、快適な共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小規模多機能ホームとグループホームのホールは常に解放されている為、好きな時に行き来されたりお話しされたり利用者様の自由空間として活用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様には入所される時に居室に置く物の説明をしている。利用者様が今まで使用して来たなじみの物を持参される方が増え心地良い空間となっている。	ホールから各居室が見えない設計になっており、事務室のモニターで居室が並ぶ廊下を常時確認することにより利用者の出入りの様子を観察できるようになっている。居室のドアにA4版サイズで名前が表示されており、ベッド、整理筆筒が備え付けられている。冷暖房はエアコンとパネルヒーターで加湿器も配置されている。利用者はテレビや使い慣れたテーブル、椅子等を持ち込み、家族写真を飾るなど、自分好みの居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の他、トイレ等に名前を表示して利用者様が混乱しない様に支援している。その他、居室からトイレまで矢印表示しトイレ内には手すりを設置し安全な空間作りに努めている。		